

## 令和3年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%以内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 発信性のある自主事業を実施します。	1 自主企画展の年1回以上の開催	□新・今日の作家展2021 実施回数	年1回	年1回	B	写真家の田代一倫の写真作品3シリーズをB1階に、美術家の百瀬文の映像や写真作品を1階に構成し、計95点を展示しました。	【成果】田代一倫の作品では、被写体と撮影者それぞれに固有の、日常的流動的な輪郭を提示しました。百瀬文は5点の出品作品を通じ、政治・文化的観点から、何気ない日常に存在する身体性の問題を浮上させ、その意味を問うような視点をもたらし、好評を得ました。初の試みである事前の対談収録をはじめ、会期中のイベントについても期間限定のオンライン配信をおこない、継続するコロナ禍における展覧会関連イベントを広く発信することができました。情報保障のあるプログラムを紹介・提供している団体(手話マップ)が対話型鑑賞会「シュワー・シュワー・アワーズ」を、本展を鑑賞対象として3回実施し、開催に協力しました。また、例年どおり展示風景や対談の書き起しを収録した記録集を発行し、展覧会アーカイブや作家資料の充実にも取り組まれました。年度末にはHPにおける動画アーカイブの広報のためバナーを作成、SNSでも取り上げる等し、他のコンテンツも含め広報に努めました。	【評価できる点】 ・「新・今日の作家展」及び「コレクション展」を通して、市民の皆さんに現代美術に触れる機会を提供しました。作家との対談動画の公開や、イベントの収録データをオンライン公開するなどインターネットを通じた鑑賞環境の提供に努めた点を評価します。 ・2つの企画展を鑑賞対象として手話での対話型鑑賞会の開催に協力しました。幅広い層の市民が鑑賞の理解を深める取組を推進しました。 ・コレクション展では鑑賞サポーターによる展示解説の実施を2年ぶりに実施しボランティアの活動を支援しました。 ・「新・今日の作家展」では昨年に引き続き企画展の記録集を発行しました。またホームページで事業や参加アーティストに係るアーカイブを公開し資料の更新に努めました。
		□入場者数	3,000名	4274名	A			
		□関連企画 事業数	2事業	3事業+1協力事業	A	・8/5田代一倫×百瀬文対談(事前実施) ・9/25対談「身体の管理/抑圧と欲望の関係について」(百瀬文×清水知子) 23名 ・10/2対談「肖像写真とスナップショット」(田代一倫×倉石信乃) 25名 ※以上、いずれも収録データを期間限定でオンライン公開。 ・9/26、10/3、9協力事業「シュワー・シュワー・アワーズ」		
	□顧客満足度	4.0以上	4.4	A			【課題】会期が短いため、来館が見込まれる層に確実に開催情報が届くよう、広報のタイミング等に工夫が必要です。	
	2 収蔵作品を活用した展覧会の年1回以上の開催 コレクション展	□コレクション展2022 実施回数	年1回	年1回	B	所蔵作品より、モノクロームをテーマに版画、写真等54点を展示。「線とかたち」「光と闇」「人がいる風景」「イメージネーション」の4章と、特集展示「浜口タカシ<北海に生きる>より」を通じ、モノクロームによる表現の多様さや豊かさを様々な視点で紹介しました。		【成果】「モノクローム」という明快なテーマ設定、その多様な魅力や奥深さを様々な切り口で伝える展示構成、見ごたえのある特集展示などが好評を得ました。まとまって紹介する機会が少なかった版画と写真作品を中心に展覧し、当館所蔵作品の魅力を新鮮な視点で提示することができました。出品作家・北川健次氏(新規収録)および特集展示の浜口タカシ氏(過去収録)のインタビュー上映や、無料配布の小冊子、鑑賞サポーター(ボランティア)による作品紹介シートやトークなど、様々な鑑賞の糸口を用意しました。鑑賞サポーター活動では幅広い世代の方が協働し、コレクションの魅力を生き生きと来場者に伝えました。また、中高年層に偏りがちなコレクション展来場者を拡大するため、小学生から参加できる版画ワークショップや、小学生の館内探検ツアーを実施しました。また、新・今日展同様に「シュワー・シュワー・アワーズ」の開催に協力しました。
		□入場者数	2,000名	3635名	A			
		□関連企画 事業数	2事業	3事業+1協力事業	A	・2/26ワークショップ「凸凹(でこぼこ)で刷る版画・コラグラフィ」14名 ・3/6,12鑑賞サポーターによるトーク 計31名 ・3/12ハマキッズ・アートクラブ「横浜市民ギャラリーまるごと探検ツアー」7名 ・3/1,5協力事業「シュワー・シュワー・アワーズ」		
	□顧客満足度	4.0以上	4.5	A			【課題】今年度はコロナ禍での来場者数目標を大きく上回りましたが、今後も子どもや若年層も含めたより広い層の方にご来場いただけるよう、来場者層を意識した企画や広報に取り組みたいです。	
	3 「今日の作家展」のWEB公開を目的としたアーカイブの実施	■「今日の作家展」の記録の整理	実施	実施	-	インタビューと協働し、今日の作家展アルバム内写真の文字データ化作業をおこないました。		【成果】今日の作家展の資料は多岐に渡りますが、展示風景を収めた写真アルバムについて、内容を文字で記述する作業をインタビューと協働し、2冊分を実施しました。「新・今日の作家展2021」出品作家2名のインタビューを収録し、会場およびHPで公開しました。
		□関連作家等へのインタビュー 実施数	1名	2名	A			
	4 収蔵作品等の積極的な公開とアーカイブの実施	■ホームページにおける検索ページの公開、更新	実施	実施	-	収蔵作品検索ページにおいて、作品のサムネイル画像の公開を開始しました。	【成果】ホームページ収蔵作品検索ページにおける作品画像のサムネイル公開に着手し、計251点を公開しました。同「今月の1点」では『横浜画廊散歩』掲載作品を解説とともに12点公開しました。収蔵作家では「コレクション展2022」出品作家より、北川健次氏に打診をおこない、インタビューを実施しました。	
		□ホームページでの収蔵作品の紹介	12点	12点	B	作品解説とともに、『横浜画廊散歩』掲載作品12点をホームページでも紹介しました。		
□収蔵作品の作家へのインタビュー 実施数		1名	1名	B	収蔵作家・北川健次氏のインタビューを実施し、コレクション展2022会場内で上映、同小冊子に掲載するとともに、ホームページでも公開しました。			
5 インターン制度の継続実施	■学芸員等を目指す学生を希望に応じて受入れを検討	実施	実施	-	①「子ども向け事業企画・運営事業」、②「コレクション管理補助業務」、③「展覧会データベース構築補助業務」の3活動で募集をおこない、7名の応募がありました。6名を採用し、5名が最終まで活動をおこないました。	【成果】①「子ども向け事業企画・運営事業」では「横浜子ども美術展」での運営補助や1月のワークショップ企画・運営をおこない、事業を通じた研修の成果を企画に反映させ実施ができました。②「コレクション管理補助業務」では作品に関する基礎的作業や修復時の記録撮影等に携わり、学芸的に有意義な内容を提供しました。③「展覧会データベース構築補助業務」では、ホームページ「事業アーカイブ」公開用データの準備を進め、入力データをもとにページの公開が実現できました。また、展覧会アルバムや資料の整理も進めました。レポートやヒアリングで進捗やニーズの把握につとめ、充実した活動をおこないました。		
	□特別支援学校インターン生 受入数	2名	1名	C	コロナ禍のため、学校でも慎重な姿勢があったことで、希望者が少なく、1名のみ参加となりました。			
						【課題】今年度はコロナ禍での来場者数目標を大きく上回りましたが、今後も子どもや若年層も含めたより広い層の方にご来場いただけるよう、来場者層を意識した企画や広報に取り組みたいです。	【更なる取組を求める点】 ・今後も新型コロナウイルス感染症の影響に応じて適切な手法で事業を実施することが求められます。オンラインによる配信や公開、ホームページやSNSでの情報提供を充実させる取組を継続することに加え、実展示についても状況に合わせた開催方法を検討し市民に文化芸術活動の機会を提供することを期待します。 ・特別支援学級の生徒の実習を受け入れ、就労支援を行うとともに、選定時の提案にあるインターン制度の目的(将来学芸員を目指す学生の実務経験、指導の場)を考慮した、積極的な受入にも継続して取り組んでください。	

## 令和3年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価	
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 発信性のある自主事業を実施します。	6 横浜市の文化事業との積極的な連携	<input type="checkbox"/> 「フォト・ヨコハマ2022」との連携 事業数 <input type="checkbox"/> 「YPAM2021」との連携(フリンジ会場提供)	1事業 実施	- 実施	※「フォトヨコハマ2022」中止 ダンスと書道、ジャグリングのコンテンポラリーパフォーマンス公演に会場提供しました(12月)。	【成果】フォト・ヨコハマは中止となりましたが、大人のためのアトリエ講座で、横浜を拠点とするアーティストによる写真講座を実施しました。  【成果】10代・20代の若い世代から高齢層まで、幅広い年代より参加があり、グループワークを通じて切磋琢磨しながら、それぞれの視点で来館者に親しみやすい作品紹介を行いました。 【課題】コロナ禍でも安心して参加できるよう、個々の事情に応じた柔軟な対応が必要です。	(評価は前ページに記載)
	7 鑑賞サポーターの育成及び活用	<input type="checkbox"/> コレクション展におけるサポーターの活用	年1回	年1回	B 育成研修4回(1/8・22、2/13・27)、トーク2回(3/6・12)を実施。鑑賞サポーター9名が活動しました。		
2 次代を担う子どもの創造性教育事業を実施します。	8 「横浜子ども美術館」の実施と新たな取組	<input type="checkbox"/> 横浜子ども美術館2021 実施回数	年1回	年1回	B 子どもの作品募集対象を個人のみ限定して実施しました。	【評価できる点】 ・「新・今日の作家展」及び「コレクション展」を通して、市民の皆さんに現代美術に触れる機会を提供しました。作家との対談動画の公開や、イベントの収録データをオンライン公開するなどインターネットを通じた鑑賞環境の提供に努めた点を評価します。 ・2つの企画展を鑑賞対象として手話での対話型鑑賞会の開催に協力しました。幅広い層の市民が鑑賞の理解を深める取組を推進しました。 ・コレクション展では鑑賞サポーターによる展示解説の実施を2年ぶりに実施しボランティアの活動を支援しました。 ・「新・今日の作家展」では昨年に引き続き企画展の記録集を発行しました。またホームページで事業や参加アーティストに係るアーカイブを公開し資料の更新に努めました。  ・「横浜子ども美術館」は、コロナ感染症拡大防止の観点から例年の開催方法を変更しました。例年、多くの来館者があるため展示作品数を絞り、来館を予約制としました。企画展の特性をふまえた対応を行い、コロナ禍での作品の発表機会を創出した点を評価します。 ・オンラインで予約を受け付けるシステムを導入し、利用者の利便性を向上させました。 ・年間を通し、新型コロナウイルス感染症の影響に対応し、内容の変更等を再検討しながら事業を実施しました。工夫を凝らし可能な範囲で市民の方の文化芸術活動を支援するために尽力した点を評価します。 ・昨年に引き続き地元町内会、伊勢山皇大神宮等との連携、紅葉ヶ丘5館連携事業に向けた調整等、地域との積極的な連携を推進した点を評価します。引き+W23続き連携の継続により、地域の活性化に寄与することを期待します。  【更なる取組を求める点】 ・今後も新型コロナウイルス感染症の影響に応じて適切な手法で事業を実施することが求められます。オンラインによる配信や公開、ホームページやSNSでの情報提供を充実させる取組を継続することに加え、実展示についても状況に合わせた開催方法を検討し市民に文化芸術活動の機会を提供することを期待します。 ・特別支援学級の生徒の実習を受け入れ、就労支援を行うとともに、選定時の提案にあるインターン制度の目的(将来学芸員を目指す学生の実務経験、指導の場)を考慮した、積極的な受入にも継続して取り組んでください。	
		<input type="checkbox"/> 入場者数	3,000名	1,974名	-		作品募集対象を個人のみとしたこと、また観覧会入場をオンライン事前予約制としたことなど、感染対策の影響で入場者数は目標を下回りました。
		<input type="checkbox"/> 出品数	300点	231点	-		コロナ禍では、例年出品している団体に個人応募への呼びかけをしていただくのは難しく、出品数は伸びませ
		<input type="checkbox"/> 関連企画 事業数	1事業	3事業	A		①ハマキッズ・アートクラブ作品展示 ②「横浜子ども美術館 未来へつなぐHistory&Memory」展示 ③おうちでワークショップ「オリジナルメダルをつくらう！」(企画協力・LITTLE ARTISTS LEAGUE)、8/18～「みんなの作品紹介」動画公開
		<input type="checkbox"/> 顧客満足度	4.0以上	4.7	A		
		■テーマ部門「スポーツ」部門	設置	設置	-		観覧会全体のテーマとし、企画の一体感を創出しました。
	<input type="checkbox"/> 「横浜子ども美術館」思い出募集・展示 実施回数	年1回	年1回	B	令和2年度より、半世紀以上の歴史ある展示会の思い出やメッセージをオンラインで募集し、展示会場で展示会の歴史とあわせて紹介したほか、全文を掲載したリーフレットを来場者に配布しました。		
	9 子どもの文化芸術の体験の場の提供と新たな取組 ハマキッズ・アートクラブ	<input type="checkbox"/> 親子対象講座 実施回数	年5回	年5回	B	感染症対策のため、例年長児を対象とする講座を年中～年中児の親子を対象に変更して実施しました。	
		<input type="checkbox"/> 小学校低学年対象講座 実施回数	年3回	年4回	A	多文化共生を軸に活動するアート団体・LITTLE ARTISTS LEAGUEを講師に迎え、日英バイリンガルの講座を開催しました(低学年・高学年対象)	
		<input type="checkbox"/> 小学校高学年対象講座 実施回数	年2回	年3回	A		
		<input type="checkbox"/> 参加者数	100名	153名	A		
		<input type="checkbox"/> 顧客満足度	4.0以上	4.9	A		
10 横浜美術館、横浜市民ギャラリーあざみ野の子ども事業との連携	<input type="checkbox"/> 3館で事業連携し、講座内容や対象年齢を考慮した講座の開催や、申込受付方法等改善検討のための企画会議 実施回数	年1回	年4回	A	各館のコロナ禍での事業実施状況や運営について、情報交換を行いました。		
	■3館での相互広報の体制作り 応募の落選者へ他館の講座を知らせる仕組みの構築	実施	実施	-	応募の落選者へ他館の講座を周知しました。		
11 親子講座の開催	<input type="checkbox"/> 親子で造形を楽しむ講座を開催 実施回数	年5回	年9回	A	・ハマキッズ・アートクラブ 5講座 ・8/16出張ワークショップ「横浜・紅葉ヶ丘まいらん協働事業」横浜能楽堂 伝統文化一日体験オープンデー「アートハットづくり」 ・12/5、8黄金町エリアマネジメントセンターとの連携企画・親子向けワークショップ「オープンアトリエ こうさくであそぼう！」 ・1/23出張ワークショップ「横浜・紅葉ヶ丘まいらん協働事業」「つくってあそぼう！横浜市民ギャラリーのアトリエがやってくる！」 ・2/26コレクション展2022ワークショップ「凸凹(でこぼこ)で刷る版画・コラグラフ」 積極的に協力し、3校全9回実施しました。		
	■横浜市民芸術文化プラットフォームへの協力 学校プログラムの実施 実施回数	年1回以上	年9回	A			
12 横浜市民芸術文化教育プラットフォーム『学校プログラム』への協力						【成果】3館のアトリエ事業担当者で、度々情報交換の機会を設けました。 【課題】横浜美術館が閉館中で実施プログラム数が少なくなっているため、当館講座への申込がやや増えている印象です。 【成果】ハマキッズ・アートクラブに加え、コレクション展では関連イベントとして親子で参加できるワークショップを開催し、コレクション展来場者層の拡大につなげました。また、地域と連携した出張ワークショップ等に積極的に取り組み、家族とともにアートを楽しむ機会を多数提供しました。 【課題】 【成果】コロナ禍でも可能な内容を検討し、屋外や広い空間で実施しました。 【課題】コロナ禍での打ち合わせや、急な時間割変更を想定した調整への対応。	

## 令和3年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
3 市民やアーティストの創造活動支援を実施します。	13 利用団体等が行う活動の支援の充実 (1)利用団体への丁寧な相談・助言	■事前打ち合わせの実施	実施	実施	-	展示会開催1か月前に事前打ち合わせを実施したほか、随時相談に応じ、展示会終了までサポートしました。	【成果】新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに沿った運営を行うため、ご利用者様と綿密な事前打ち合わせを行い、コロナ対応にご理解いただけるよう、丁寧なご案内に努めました。 【課題】感染症対策の最も主要なものは「密を避ける」ということですが、たくさんの方に作品を鑑賞いただく施設としては、本来あるべき姿とは逆のため、利用者様、ご来場者様の中には、ご理解いただくのが困難なケースが多々あります。	
		■<ヨコハマ・アートナビ>「アートヨコハマ」「横浜画廊散歩」での事前広報 ■<ヨコハマ・アートナビ>への情報提供	実施	実施	-	利用団体の展示会情報を市民ギャラリーの情報誌やホームページ上に掲載するとともにLOD化されている「ヨコハマ・アートナビ」へ情報提供を実施しました。		
	(2)利用団体の展示会についての積極的な広報	□「アートヨコハマ」発行回数	年3回	年3回	B	横浜市民ギャラリーの総合情報誌。自主事業、貸館事業の紹介。横浜美術館や市民ギャラリーあざみ野等の紹介も行いました。		
		□「横浜画廊散歩」発行回数	月1回	月1回	B	市内約14の美術施設や画廊などの展示会情報を毎月お届けしました。		
	14 文化芸術の体験の場としての講座等の実施 (1)文化芸術の体験の場としての講座等の実施 大人のためのアトリエ講座	□つくて学ぶ 講座数	年7講座	年10講座	A	①4/14、21、28、5/5「着衣クロッキーAコース」 ②4/30、5/7、14、21「和の装いを描く」 ③6/3、10、17、24「着衣クロッキーBコース」 ④9/4、11「はじめての日本画 絹に描くー若冲の彩色に学ぶ」 ⑤11/18、25、12/2、9「着衣クロッキーCコース」 ⑥12/10「日本画(板絵)体験と横浜能楽堂見学」 ⑦12/11、18「はじめての日本画 絹に描くー若冲の彩色に学ぶ」 ⑧1/14、21、28、2/4「着衣クロッキーDコース」 ⑨2/11「ピンホールカメラ体験『見る』ことを考える」 ⑩2/12「ピンホールカメラ体験『見る』ことを考える」		
		□きいて学ぶ 講座数	年3講座	年3講座	A	①-1:10/17「横浜市民ギャラリー+神奈川県音楽堂 連携企画 対話型ワークショップ「茶色の朝」を体験しよう」 ②-2:12/4「かたづけたいけどどちらかしたい。」 ③-3:3/13「アトリエトーク「絵のはなし」」		
		□参加者数	130名	203名	A			
		□顧客満足度	4.0以上	4.8	A			
		□U35 若手芸術家支援事業 実施回数	2展示会以上	3展示会	A	残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大のために、開催チラシの配布まで行ったにも関わらず開催中止となった展示会が1つありました。		
	15 若手芸術家の活動支援	美術情報の提供及び広報の充実 (1)横浜美術館との情報連携の強化	■広報連携の実施	実施	実施	-		「横浜画廊散歩」や「アートヨコハマ」では横浜美術館の事業をピックアップし、横浜市民ギャラリーあざみ野とはそれぞれの情報誌で相互に事業を紹介するなどして連携しました。 ■横浜美術館「市民のアトリエ」との連携講座 ■横浜市の文化政策上重要な事業について、映像情報等を交えたコーナーを設置し、広報する。
		(2)ホームページ、SNS等の活用による充実しタイムリーな情報発信	■空室情報の更新 実施状況 ■会期初日での展示会情報の紹介	随時実施	随時実施	-		エンタランス・送迎車内モニターでDance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021の告知映像を放映し、併せてチラシを配架して広報しました。
		(3)広報誌の定期的な発行	□「アートヨコハマ」発行回数 □「ヨコハマ・ギャラリーマップ」発行回数 □「横浜画廊散歩」発行回数	年3回 年1回 月1回	年3回 年1回 月1回	B B B		
16	市民参画等の協働の推進による美術振興の担い手育成 (1)文化芸術の情報の場(=情報コーナー)における発信の工夫	■ポスター、チラシ、映像等による発信方法の工夫	実施	実施	-			
	(2)自主企画展におけるボランティアの活用	□ボランティアの活用 回数	年1回	年2回	A	・「横浜市民ギャラリー」ワークショップ材料準備 3名 ・コレクション展鑑賞サポーター 9名(のべ45名)		
4 創造活動を介した人々のネットワークを形成します。	18 関連施設、民間ギャラリー、利用団体、ボランティア、アーティスト、学校教育間での相互交流の実施	■関連施設とのネットワーク インターネット情報、印刷物の相互配布	通年	実施	-			
		□民間ギャラリーとのネットワーク 「横浜画廊散歩」発行回数	月1回	月1回	B			
		□民間ギャラリーとのネットワーク 「ヨコハマ・ギャラリーマップ」発行回数	年1回	年1回	B			
		■民間ギャラリーとのネットワーク 展示会のホームページへの掲載	掲載	実施	-	SNSでも発信しました。		
		■利用団体との交流 貸館利用打ち合わせの実施	通年	実施	-			
		□ボランティアの活用 コレクション展での募集(再掲)	年1回	年1回	B			
		□アーティストとのネットワーク 大人のためのアトリエ講座 実施事業数	全5講座	13講座	A	ヨコハマトリエンナーレ2020に出品したアーティストなど、現代アーティストを中心に講師を迎えました。		
		□アーティストとのネットワーク 展示会 実施回数(再掲)	年3回	年3回	B			
		□学校教育とのネットワーク アウトリーチ 実施回数(再掲)	年1回	年9回	A	小学校アウトリーチを3校9日間実施しました。(個別支援学級他)		

## 令和3年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 創造活動の発表の場を提供します。	公平・公正かつホスピタリティの高い貸出業務 (1)多くの市民に利用してもらえるような公平・公正で、透明性の高い施設貸出	□全展示室利用団体の抽選会 実施回数	年1回	年1回	チェック欄 B		【成果】 利用団体にコロナ感染防止策にご理解いただけるよう、丁寧な対応を心掛けました。 町内会・伊勢山皇大神宮・横浜成田山・横浜市従会館と情報交換を密に行いました。 伊勢山皇大神宮への当館チラシラックの設置、町内会掲示板へのチラシ掲示を通じ、自主事業の周知にご協力いただきました。 神奈川県立音楽堂・県立図書館・県立青少年センター・横浜能楽堂・横浜市民ギャラリーで構成される5館連携事業「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」では、各施設にて定期ミーティングを行い協働事業を開催しました。当初参加を予定していた子ども向けイベントの中止に伴い、急きょ会場や規模を縮小して実施しましたが、近隣住民を中心に、幅広い年齢層の方々にクイズやワークショップ、伝統芸能を楽しんでいただきました。また、来場者特典として新規に制作したオリジナルグッズ「横浜・紅葉ヶ丘まいらんさんぽ・クリアファイル」を配布し、紅葉ヶ丘エリアの広報に繋がりました。 また、昨年度は中止となった「野毛まちなかキャンパス」がオンライン開講となり、うち1講座の講師を職員がつかめました。  【課題】 地域文化施設のみならず、保育園や地域ケアプラザなど、連携先を広げる予定にしていたが、コロナ禍のため、今後の課題となりました。(チラシの定期的な配布を実施)	
		□1~5室利用団体の利用調整 実施回数	月1回	月1回	B			
		■抽選会後の空き室 先着順に受付	実施	実施	-			
		■直前での利用申込み等に、安全を確認した上での対応	実施	該当なし	-	直前での利用申し込みはありませんでした。		
		■利用団体からのアンケートを運営に活かすための職員内での情報共有	実施	実施	-			
		□利用団体からのアンケート 回収率	80%以上	100%	A			
		□施設スタッフ全員での定期ミーティング 開催回数	月1回	月1回	B			
	(2)利用団体への丁寧な相談・助言	■展覧会開催・終了までの利用打ち合わせ・展示作業及び展覧会期間中の運営サポートや広報面での助言協力	実施	実施	-	利用者の経験等を鑑みながら、きめ細やかな運営サポートを行い、利用者が安心して展覧会が開催できるよう支援しました。		
		□アンケート満足度	4.0以上	4.6	A			
	(3)利用団体の展覧会についての積極的な広報	■「アートヨコハマ」への開催情報の掲載(再掲)	実施	実施	-			
		■会場風景のホームページでの紹介、展覧会情報のFacebook・Twitterへの掲載	実施	実施	-	全ての展覧会の初日に会場風景を撮影し、ホームページで紹介しました。		
		■利用者ごとの柔軟な対応	実施	実施	-	展覧会をより円滑に充実して行えるよう、利用者ごとに柔軟に対応しました。		
	(4)エリアを通じた施設周知	■5館連携事業など、近隣・コミュニティとのリレーションシップによりエリアを通じた施設周知を図るための近隣・コミュニティとの連絡会の開催	実施	実施	-	近隣施設と定期的な会議を開催しました。		
		■広報連携	実施	実施	-			
	(5)横浜市民ギャラリーあざみ野との連携による情報提供	■空き室情報の共有	実施	実施	-			
		実施	実施	-				
						【評価できる点】 ・きめ細やかなコロナ感染症対策を講じたうえで、展示室及びアトリエの施設提供をし、文化芸術活動の発表の場を提供し、創作活動の支援を行いました。施設利用上のお願いを作成し、貸出備品等の消毒の実施や、施設独自の看板等を館内に設置し注意喚起を行うなど利用者様が安心して利用できる環境づくりに努めました。 ・他施設との連携事業についても、可能な範囲で事業を実施しました。近隣施設で構成される「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」ではコロナウイルス感染症対策の観点からイベントの中止や内容変更があるなかで、子どもを対象としたワークショップを開催しました。状況に応じた柔軟な対応により、市民の皆さまに文化芸術活動に触れる機会を提供しました。 ・適切な人員配置により、安定した施設運営が継続された点を評価します。 ・収蔵作品の管理について、IPM手法を活用しながら実施し、収蔵庫を含めた館内全体の環境維持に努めました。作品のクリーニングや状況確認を速やかに進めた点を評価します。 ・個人情報の適切な取り扱いや、人権尊重に係る研修の実施等、業務を適切に遂行したことを評価します。 ・SNSを活用し、イベントの開催や作品の紹介を積極的に行ったことを評価します。 ・ホームページの収蔵作品検索ツールにサムネイル画像を公開するなど、アーカイブの利便性の向上に努めました。  【更なる取組を求める点】 ・収蔵作品について、適切かつ計画的な調査、修復、管理を引き続き行うことを期待します。 ・収蔵作品のデータベースの更新等を継続的に実施してください。貴重な収蔵作品の活用と公開のため、引き続き画像データの掲載を推進することを期待します。 ・桜木町駅からの送迎サービスは定着が図られています。今後も継続してサービス提供をお願いします。		

## 令和3年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
2 利用促進及び利用者サービスの向上及びアイデアノウハウの提案をします。	2 適切な施設情報発信等による認知度向上への取組強化	■施設情報の適切な発信による施設の認知度アップへの取組	実施	実施	-	ホームページやSNSで展覧会情報、自主事業情報、空き室状況、送迎車情報を発信し、施設の認知度アップに取り組みました。	【成果】度重なる新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドライン変更なども、遅滞なくホームページで周知したことに加え、利用団体へ電話をかけ直接ご案内するなど、丁寧な情報発信に努めました。 【課題】ホームページは前年度末に新しく切り替わり、またスマートフォン版も新調しましたが、まだ軽微な修正を引き続き行っていく必要があります。
		■ホームページでの施設情報の周知	実施	実施	-	展示室・アトリエのバーチャルツアーをホームページに引き続き掲載したほか、新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインや来館の際のお願いなど、コロナ禍で重要な施設情報については、動画を使用するなど、ホームページで分かりやすいように工夫しました。	
		■全展覧会のFacebook、Twitterでの紹介	実施	実施	-	全展覧会を画像やハッシュタグ付きでFacebook、twitterで紹介しました。	
		■利用案内による施設情報周知	実施	実施	-	コロナ禍での運用の変化にも対応できるよう、ホームページでの案内の更新にも留意しました。	
	3 空き室の有効利用等の利用促進のための取組の拡充	■積極的な施設貸出の営業	実施	実施	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、積極的な営業をするには至りませんでした。ガイドラインについての丁寧な説明をしたうえでのご利用をお勧めしました。	【成果】新型コロナウイルス感染拡大防止に努める中、積極的な施設貸出の営業は時節柄ふさわしくありませんでしたが、安全に施設をご利用いただけることの周知には積極的に努めたので、新規のご利用実績も複数ありました。 【課題】新型コロナウイルスの対処方法が、コロナ禍当初に比べれば確立してきたとはいえ、「密を避ける」という対策は変わらず、「集客して作品を観ていただく」施設としてのあり方と相反する事態について、利用者も、施設スタッフも、仕方ないとはいえ、受け入れがたい気持ちとなってしまうことがあげられます。
		■ホームページでの空き室情報の公開	随時	実施	-	ホームページで空き室情報を随時アップし、最新の情報を提供しました。	
		■美術関係者・団体とのネットワーク拡大による個別に営業をかけられる体制の構築	実施	実施	-	これまでの施設運営で蓄積した美術関係者・団体とのネットワークを大切に運営につなげています。	
		■抽選・利用調整に外れた全利用者への代替案の提案	実施	実施	-	抽選(利用調整)に外れた利用者に対しても、別日程での利用を提案するなど、施設の利用を促進するよう努め	
		■利用希望日より6か月を切った展示室空室の個人利用を可能とする運用	実施	実施	-	新規でのご利用実績4件ありました。	
	4 利用率の向上と目標指標の達成 (令和3年度目標) 展示室:85% アトリエ:30%	■U35 若手芸術家支援事業で、若手芸術家を支援しつつ、展示室利用率向上を実現する □来館者数	13万人	116,281人	-	令和2年度に比べれば激減したものの、年度を通して新型コロナウイルス感染拡大を理由とする貸館展覧会の開催中止(利用キャンセル)が続き、来館者数及び展示室利用率は目標達成には至りませんでした。その一方で、館内で飲食ができる部屋としてアトリエの利用が増加したため、アトリエの利用率は目標を大きく上回りました。	【成果】新型コロナウイルス感染症拡大のため、目標値を下回る結果となりましたが、クラスターの発生はありませんでした。 【課題】利用者、来館者の協力なくしては感染防止策の徹底はできません。
		□利用率 展示室	85%	79%	B		
		□利用率 アトリエ	30%	56%	A		
	5 要望・苦情への適切な対応とその共有の実施	■職員ミーティングでのお客様への対応の確認	随時	実施	-		【成果】利用団体にはコロナ対応について丁寧な説明に努め、結果、新型コロナウイルス感染症に罹患したという事例はありませんでした。 【課題】利用団体も、我々施設スタッフも、昨年度に引き続き感染症防止策へ着実に取り組みましたが、利用者にとっては、展覧会を中止すべきといった意見の方、確実な対応策をとれば充分と考える人、逆にもっと緩くすべきと考える人など、温度差も様々な中、ガイドラインをご理解いただけるためには、丁寧な説明が必要です。
		■お客様へのアンケートの実施と共有	通年	実施	-		
		■苦情・要望の分析と共有	随時	実施	-		
		■速やかな対応と再発防止のための情報共有 実施状況	随時	実施	-		
		■横浜市との情報共有	随時	実施	-		
	6 宮崎町親和会(町内会)や伊勢山皇大神宮、成田山横浜別院との協体制構築	■改善事例のホームページでの公開	随時	実施	-	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、都度変更となったガイドラインをはじめ、コロナ対応関連のご案内表記など、わかりやすい案内に努めました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の一助となるよう、自主事業企画の中でオンラインでもお楽しみいただけるコンテンツを今年度も用意しました。	【成果】年末年始には、伊勢山皇大神宮への参拝客のために自宅から車両を出庫できなくなるエリアにお住まいの近隣の方々のために、当館の駐車場を貸し出すことで、少しでも地域の皆さまのお役に立つことに努め、さらには神社との連携も深めています。 【課題】常日頃からの関係性が大切です。
		■町の美化や町内行事の参加だけでなく、共に施設のPR等を行う	実施	実施	-		
		■宮崎町親和会での事業周知	通年	実施	-	町内会掲示板へのチラシ掲示により、自主事業の周知に通年でご協力いただきました。	
		■伊勢山皇大神宮の参拝客へのアピール	通年	実施	-	伊勢山皇大神宮に当館のチラシラックを設置していただき、ポスター掲示とともに参拝客へのアピールを通年行いました。	
7 送迎車の最適な運用の実施	■成田山横浜別院との情報交換	通年	実施	-		【成果】コロナ禍以前とは異なり、送迎車の変則ダイヤや運行自体がないなど、細やかに情報を掲出する必要があり、ホームページでの周知を充実させて対応しました。お問い合わせの電話には丁寧に対応しています。 【課題】横浜市民ギャラリー送迎車乗り場の表記を現地に出すことができないので、説明が(とくにホームページで見られる環境にない方に対して)難しいです。	
	■桜木町駅と横浜市民ギャラリー間で(車椅子利用者等の利用にも配慮した)無料の送迎車の走行	実施	実施	-	新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を十分にしたうえで、安心してご利用いただきました。		
	■展覧会に即した着実な運行	実施	実施	-			
	■館内、ホームページでの周知	実施	実施	-	年度後半には桜木町駅前交通広場改修工事に伴い、一時的に送迎車乗り場が分かりにくくなったため、ホームページに加えて現地での案内表記について横浜市と協議し対応しました。		
	■運行データの収集	実施	実施	-			

## 令和3年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価			
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
3 市民ギャラリー所蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示をします。	8 収蔵作品の適切な収蔵、保管、調査、研究、発表、活用、展示の実施	■作品の定期的な点検確認	実施	実施	-	作品の修復・クリーニング等の機会に対象作品やその他の作品を点検し、記録を残しました。	【成果】作品および収蔵庫について、IPMを取り入れた管理を引き続きおこないました。作品の点検や棚卸、修復・クリーニング、収蔵作家や作品関連資料の収集・調査・研究、データベースの更新、撮影等を随時おこないました。作品の棚卸では、インターン生と協働することで教育的に実践の場を提供する役割を果たすことができました。作品修復・クリーニングにおいては処置ベースを上げるために職員による自前クリーニングが可能な作品を専門家による調査の上拡大し、自前処置を開始しました。従来修復はB1展示室を利用しおこなっていましたが、同調査では収蔵庫内で処置可能な作品も洗い出し、次年度以降の修復・クリーニング計画にも着手しました。2019年1月に改正された著作権法第47、および全国美術館会議を中心として作成されたガイドラインを受け、ホームページ「収蔵作品」検索ページにおいてサムネイル画像の公開を開始し、251点を新たに公開しました。本件においてもインターン生が参画しました。 【課題】 上述したように収蔵作品や関連する資料の管理や公開には、状況を把握し作業内容を提示・確認する者のほか、作業者の手が必要です。教育や実践の機会の提供には繋がりますが、応募人数が不定なインターン生に作業を頼っている状況は本来望ましくないといえます。	(評価は前ページに記載)	
		□作品の棚卸 実施回数	年1回	3回	A	作品外観における棚卸を、一部インターン生も協働して実施しました。			
		□館内の継続的なIPM点検による庫内環境の維持	隔月 年1回	隔月 年1回	B	IPM点検は予定どおり偶数月に実施しました。また、年1回の専門会社による全館点検を実施しました。パッシブインジケータ曝露方式による収蔵庫内の空気環境測定も年2回実施しました。			
		■作品データベースの更新	実施	実施	-	作品点検や資料調査を通じて新たに判明した情報は、逐次作品データベースに反映しました。また、修復を経て状態がよくなった作品やポジフィルムの褪色が生じている作品21点について撮影をおこない、広報等に使用する画像データを更新しました。			
		■収蔵作家・作品関連資料収集、整理、調査、研究	実施	実施	-	随時収蔵作家や作品に関する資料・情報を収集、整理しました。また調査・研究をおこないました。			
		■ホームページでの収蔵作品検索ページの公開、更新(再掲)	実施	12点	A	作品データベースを更新した際は、ホームページ「作品検索」ページにも反映・更新しました。また、新規サムネイル公開を開始し、251点を新たに公開しました。			
	9 資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についてのデータベースの継続的な充実及び台帳の継続的な管理と収蔵作品の公開の実施	□コレクション展 実施(再掲)	1回	1回	B				
		□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数(再掲)	12点	12点	-				
		■作品修復・クリーニング 実施(再掲)	実施	実施	-	2点の業者による修復、2点の一部自前クリーニングと並行した業者修復、6点の自前クリーニングをおこないました。			
		■資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴についての整理、調査、データベースの更新(再掲)	実施	実施	-	資料情報、作品の貸出、展示、修復等の履歴について整理し、不足情報等は調査の上データベースに反映・更新しました。			
		□コレクション展 実施回数(再掲)	1回	1回	B				
		□ホームページでの収蔵作品の紹介 紹介点数(再掲)	12点	12点	B				
4 運営組織の構築及び組織的な運営をします。	10 適切な運営組織体制と人材の配置	■人材配置 館長:1名、事業・運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:4名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:3名、施設管理担当者:1名、警備チーフ:1名、警備担当者:5名、清掃チーフ:1名、清掃担当者:3名、常勤アルバイト:2名、短期アルバイト:2名	配置	配置	-	館長:1名、事業・運営管理責任者:1名、学芸・事業担当者:4名、施設運営担当者:4名、施設管理責任者:1名、施設管理副責任者:3名、施設管理担当者:1名、警備チーフ:1名、警備担当:5名、清掃チーフ:1名、清掃担当:3名、常勤アルバイト:2名、短期アルバイト:2名	【成果】事業・管理面とも適切な人材配置ができ、確実な施設運営ができました。 【課題】 利用がある限り、シフトを薄くすることはできず、国が求める在宅勤務者数の割合を増やすことは困難です。		
		■勤務体制 ローテーション体制 主催事業や貸館内容に応じ、勤務体制を調整し、柔軟に対応する。 事務室スタッフ 原則3名以上 設備管理スタッフ 開館時:設備1名、警備2名、清掃2名 5名以上 閉館時:設備1名、警備2名 3名以上	実施	実施	-	勤務体制 ローテーション体制 主催事業や貸館内容に応じ、勤務体制を調整し、柔軟に対応しました。 事務室スタッフ 原則常時3名以上 設備管理スタッフ 開館時:設備1名、警備2名、清掃2名 計5名以上配置しました。 閉館時:設備1名、警備2名 計3名以上配置しました。			
		□定例会の実施 実施回数	月1回	月1回	B				
		11 組織内の情報共有及び主要人材の能力担保 組織的な施設運営のための職務の効率化や職員間の情報共有、業務改善のための会議を定期的実施すると共に、職員 の能力担保のためOJT及び定期的な研修等を実施	□研修 実施回数	年2回	年8回	A			
			□定例会の実施 実施回数	月1回	月1回	B			
			□研修 実施回数	年2回	年8回	A			
	□定例会の実施 実施回数		月1回	月1回	B				
	□研修 実施回数		年2回	年8回	A				
	□定例会の実施 実施回数		月1回	月1回	B				
									【成果】各部署でのミーティングや全体会議で、課題や取組について議論することで情報共有するほか、外部研修の内容を共有し、全スタッフの施設運営に対するスキルアップができました。 【課題】 ・人事異動や有期雇用職員の期限に伴う人材の確保が課題です。平素よりスタッフ間でのお客様対応等の情報共有や業務のローテーションで個々の経験値を高めることにより、スタッフのスキルの平準化を図り、常時高いレベルの利用者サービスを提供できる施設運営の保持に向け取り組みます。

## 令和3年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況			評価	
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績		説明	自己評価	行政評価
5 本市の重要施策を踏まえ取り組みます。	12 個人情報保護についての取組 ・個人情報保護は規定及びマニュアル等に基づく適切な取り扱い ・具体的な業務についてルール化し、研修や定期的なミーティングによるスタッフの個人情報取扱いに対する意識の向上 ・メールやFAX、郵便物の送付時の個人情報漏えいの防止 ・個人情報の適切な管理の徹底	□過失による個人情報流出事故ゼロ	0件	0件	B	個人情報は施錠しての保管やパスワード等、規定やマニュアル等に基づいた取り扱いを行いました。コンプライアンス委員会を中心に研修や情報共有を実施しました。	【成果】 研修やミーティングを通じてコンプライアンスの取組や、危機管理についての知識や意識を共有し、職員全員で取り組むことができました。  【課題】 今年度もコンプライアンス事故等ありませんでしたが、気を緩めることなくコンプライアンスや危機管理に継続的に取り組みます。指定管理者事務局本部では、毎月1回コンプライアンス委員会を開き、コンプライアンスに関する具体の事例について検討しました。今後も継続してその検討内容を全スタッフに共有することで、日常の業務の危機管理に備えます。	(評価は前ページに記載)
	13 情報公開についての取組	■規定に基づく適切な対応 ■事業計画書及び事業報告書のホームページでの公開	実施	実施	-			
	14 人権尊重についての取組	■全ての人に開かれた施設として人権に配慮した運営や接遇の実施  □横浜市主催の人権講習への職員の参加、職場内の研修についても人権尊重の意識を高める取り組みを実施。	実施	実施	-	研修への参加や事例の共有を通じて、人権に配慮した運営や接遇を実施しました。  横浜市主催の人権研修を各自オンライン受講することで、人権尊重の意識を高めました。		
	15 環境への配慮に関する取組	■環境への負荷の低減を意識した省エネルギー化、省資源化  ■「市役所ごみゼロ」「横浜市脱温暖化行動方針」「ヨコハマ3R(スリム)プラン」に基づく施設管理  □施設内での空気環境測定 2か月に1回実施	実施	実施	-	全職員が環境への負荷の低減を意識し、業務に支障のない範囲で省エネルギー化、省資源化に努めました。またデマンド監視装置を活用し、効率的な省エネを実現し		
	16 市内中小企業優先発注についての取組	■物品購入・委託等の、特別な専門性が必要な理由がある場合を除き、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」に登録された企業への発注	1回/2か月	年6回	B	業務に支障がない限り、横浜市の「物品・委託有資格者名簿」での登録業者に委託・発注しました。複数の振込口座を持つ相手先には横浜市内に本支店を持つ口座を優先的に使用しました。		

## 令和3年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 施設、設備の維持保全及び管理をします。	1 PDCAサイクルに基づく、計画的で高水準な施設管理業務の実施	■施設・設備について高水準で効率的な定期点検及び日常点検の実施	実施	実施	-	【成果】共同事業体である強みを活かして、コロナ禍であっても、施設の安心、安全、快適環境を維持しました。アンケートでの快適評価は4.5と高い評価に繋がりました。	【評価できる点】 ・年間を通じて適切な維持管理を実施し、施設原因の事故等の発生件数がゼロ件であった点を評価します。また、利用者アンケートでの快適評価が目標を上回っており、施設の状況を常に良好に保ち、安全かつ快適な施設環境を提供することができました。  【更なる取組を求める点】 ・引き続き良好な施設の維持管理に努めてください。また、施設・設備の不具合箇所が発生した場合には、適切な小破修繕の実施を行うとともに、関係各所との情報共有を行う等、継続して施設の長寿命化に努めてください。特に、本施設特有の課題に対してはこれまで培った経験等をさらに活用することを期待します。
		■施設(建築物)、設備及び備品の破損、不具合等の異常時の利用者の安全の確保、施設の運営に支障をきたすことのない適切な措置、速やかな報告の徹底	実施	実施	-		
	2 施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	■施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できる管理の実施	0件	0件	B	【課題】 ■施設の状態を常に清潔に保ち、利用者が快適に利用できるような管理を実施しました。展示室の壁面は定期的な専門施行業者によるメンテナンスの実施に加え、当館スタッフによるリタッチを実施し、経費節減をしつつ展示壁をより良い状態に保つよう努めました。	
		■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有	4.0以上	4.6	A		
3 保守点検、備品管理、環境維持の実施	■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有	■備品の適切かつ良好な状態での管理	実施	実施	-	【課題】 ■設備管理業務日誌での日常点検の通年の記録と共有	
		■廃棄物の排出量を把握し、減量や分別・リサイクルへ努める	実施	実施	-		
4 収蔵庫の適切な管理の実施	■空調管理の実施	■空調管理の実施	室温22℃(±3℃) 湿度53%(±3%)	目標通りに温湿度管理達成は2カ月	C	各種機器のデータを確認しながら手動での空調管理をおこないましたが、空調機の能力問題もあり、適切な温湿度を維持できなかった日が多かったです。	
		■収蔵庫内及び収蔵庫周辺の定期的な清掃、必要に応じた館内・備品も含めた清掃と簡易消毒の実施	週1回 適宜	週1回 適宜	B		収蔵庫は定期的に清掃しました。また、IPM点検結果を受け館内の適宜消毒や追加清掃をおこない、環境維持・向上につとめました。
2 小破修繕へ取組みます。	5 効果的な小破修繕への取組	■施設管理に対する全職員の意識の向上	実施	実施	-	【成果】 情報共有のほか会議で取り上げるなど、施設管理に対する全職員の意識の向上に努めました。	
		■全職員及び横浜市との情報の共有	実施	実施	-		【課題】 ■全職員及び横浜市との情報の共有
		■全修繕履歴の年度毎のデータ化	実施	実施	-		
6 保守管理の専門技術を活かした、迅速かつ臨機応変な突発修繕への対応	■保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対応	■保守管理の専門技術を活かした、突発修繕への速やかな対応	実施	実施	-	豊富な経験を有する共同事業体の専門職員を中心に、突発的な修繕を必要とされる場合でも速やかに対応しました。	
		■定期点検や日常点検、横浜市の施設管理におけるガイドラインに沿った点検・報告等の実施による修繕必要箇所の早期発見・対応	実施	実施	-		
3 事故防止体制・緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理を行います。	8 事故防止体制・緊急時のための方針と対策 (1)警備スタッフ及び機械警備による切れ目のない万全の警備体制の実施 (2)関連法規等の遵守 (3)警備計画及び報告書の作成と適切な報告の実施 (4)施設内外への防犯対策の実施	■警備専門スタッフと機械警備による万全の警備体制の実施	実施	実施	-	【成果】 事故防止体制・緊急時のための方針と対策として警備専門スタッフ及び機械警備による警備体制を敷くとともに、日頃から連絡・報告体制を整えました。新型コロナウイルス感染症拡大防止策については、横浜市からの通達に沿ったガイドラインを策定し、ご利用者や来館者、施設スタッフの安全確保を第一に運営を行いました。	
		■業務の基準に基づく警備の実施と利用者の入退出の適切な管理	実施	実施	-		
		■業務を遂行する上での、定められた関連法規等の遵守	実施	実施	-		
		■警備計画書及び巡回警備計画書の作成とそれに基づく警備業務	実施	実施	-		
		■警備スタッフによる警備及び機械警備の業務日誌の作成と共有	実施	実施	-		
	9 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等の感染症対策	(5)救急セットやAED等の設置と十分な研修の実施	■救急セットやAEDの完備	実施	実施	-	【課題】 文化庁の補助金(感染対策)を利用して、感染対策に必要なものを調達しましたが、令和3年度内にコロナが収束することはなかったため、引き続きコロナ対策用の物品を調達していく必要があります。
			■AED取扱い研修未受講の新配属スタッフ等対象に実施	実施	実施	-	
			■毎日のAEDのセルフメンテナンスチェックの結果確認	実施	実施	-	
			■職員による施設内巡回による衛生管理の徹底	実施	実施	-	
			■新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのガイドラインを守る	実施	実施	-	
9 新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ等の感染症対策	■新型コロナウイルス感染者が出た場合は迅速に保健所に届け出、適切な対応をはかる ■常時マスク装着の徹底、密の回避、可能な限りの換気実施	■新型コロナウイルス感染者が出た場合は迅速に保健所に届け出、適切な対応をはかる	実施	実施	-	横浜市の連携を密にし、対応しました。  網戸を取り付けてある窓を開けるなど、換気能力の向上を図りました。	
		■常時マスク装着の徹底、密の回避、可能な限りの換気実施	実施	実施	-		
		■感染症予防のための掲示の実施や消毒液の設置	設置	実施	-		
		■感染症への留意と異常時の迅速な対応	実施	実施	-		
		■汚物の処理にあたっての準備及び処理時の手袋・マスクの装着の徹底	実施	実施	-		

令和3年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
4 防災に関し取り組みます。	10 緊急時の連絡体制・役割分担	■緊急時の対応の明確化	実施	実施	-	【成果】 消防訓練では、少人数体制を想定しての訓練を行いました。シフト勤務の中でも、迅速な対応ができるように、毎日、自衛消防団の役割を自覚できる仕組みづくりを引き続き行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、お客様の安全はもちろんのこと、お客様を受け入れる側である我々職員も、シフトが組めなくなるような事態を避けるべく、各自の危機管理能力を高め、感染防止に努めました。  【課題】 いつ起こるか分からない災害と同様、感染症の脅威も予測不可能です。1名の罹患者が出てカバーできても、複数名の罹患者が同時に出るような場合には単館のみでの対応では困難が予想されます。	
		■緊急連絡網の作成と市への提出	実施	実施	-		
	11 平常時の防災対策	■関連法規に基づいた届出等の実施	実施	実施	-		
		■日頃からの危機意識の向上	実施	実施	-		
		■全スタッフへ対象の訓練の実施	実施	実施	-		
		□危機管理マニュアルに基づくスタッフの消防訓練	年2回	年2回	B		
	12 災害発生時の取組	■自衛防災組織の設置と継続的な防災訓練の実施	実施	実施	-		
		■町内会と防災関連の協議を行い、地域社会での責務を果たす	実施	実施	-		
		■関連法令、条例、業務の基準に基づく来館者の安全確保を最優先とした適切な対応	実施	実施	-		
		■情報管理の一元化及び適切な報告	実施	実施	-		
		■二次災害の発生防止措置の実施と、横浜市等との協議の上での適切な対応	実施	実施	-		
		■非常用簡易トイレ、飲料水、非常食、毛布等の備蓄	実施	実施	-		
13 帰宅困難者一時滞在施設としての準備等の災害時の取組	■適切な情報収集による来館者や職員、施設の安全確保のための取組	実施	実施	-			
	■災害鎮静後の危機管理マニュアルに基づく適切な対応と原状復旧体制の確保	実施	実施	-			

令和3年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 収支の適切な構造及び収支バランス	1	(収支予算書及び報告書) ■適切な収支構造、収支バランスの確保	実施	実施	-	新型コロナウイルス感染防止対策等のために、貸館利用のキャンセルが発生したものの、前年度よりは抑えられており、利用料収入は目標額を若干上回りました。自主事業については大人講座収入、広告料収入が目標を上回りました。	【成果】 ・新型コロナウイルス感染症拡大のために、収支の先行きが見通せず、かじ取りに苦労しましたが、赤字決算を避けることができました。 【課題】 ・新型コロナウイルス感染症拡大のために、コロナ禍以前で通用していたもの見方や考え方はそのままでは役に立たないものとなりました。今後も感染状況をにらみつつ、精緻な執行管理に努めてまいります。	【評価できる点】 ・自主事業の企画にあたってはコロナ感染症対策の影響により当初の計画から変更を余儀無くされました。また、事業収入についても見通しのつかない時期が長くありました。そのような状況においても、収支バランスの調整に努めた点を評価します。 【更なる取組を期待する点】 ・今後も文化芸術の拠点として、質の高い自主事業展開を継続するために、収支バランスにも配慮した企画立案及び管理業務を行ってください。
2 指定管理料のみに依存しない収入構造	2	□利用料金収入(駐車場を除く)	985万円	1,004万円	B	新型コロナウイルス感染症拡大のため、キャンセルが発生しましたが、昨年度に比べると少なく、利用料金収入の最終的な実績値は目標額を上回りました。	【成果】 新型コロナウイルス感染症拡大による利用率の減少は、昨年度に比べれば持ち直したと言えます。そのため、収入は昨年度に比べると大幅に改善し、目標金額を上回りました。 【課題】 新型コロナウイルス感染症が収束しない限り、コロナ禍以前の利用料収入を得ることは困難です。	
	3	□駐車場利用料金収入	100万円	163万円	A	展示室の利用率が持ち直してきたこと、搬入日の駐車場利用については、優先枠利用はそのままに、有料化したことで、大きく増収となりました。		
	4	□助成金・協賛金 □広告料	50万円 60万円	0円 62万円	C B	昨年度から新しく増やした広告スペースを継続して確保し、多くの広告主に継続して掲載いただけたことで、目標を上回る広告料収入となりました。		
	5	□大人のためのアトリエ 講座料収入 □ハマキッズアートクラブ 講座料収入	81万 18.5万	90万円 17万円	A B	定員を上回る申込があったため、キャンセル時、繰り上がり当選者にスムーズに案内ができ、定員割れがありませんでした。結果、目標を上回る講座料収入となりました。当初見込んでいた新型コロナウイルス感染拡大状況の好転時の定員増員がかなわず、受講料収入は目標を下回りました。		
	6	□自動販売機販売売上手数料収入額	16万円	11万円	C	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、館内では水分補給以外原則飲食禁止のため、来館者層を予測しながら販売内容を決定しましたが、目標額は達成できませんでした。		
	3 経費削減等効率的運営の努力	7	■横浜市に準じた経理規程に基づいた、支出を最小限に抑える取組 ■事務用品の再利用の推進 ■広報物の発送の効率化による経費の削減 ■計画的な経理処理による手数料の削減	実施	実施	-		
8		■施設・設備の効率的な運用による経費削減 ■施設・設備の現状把握と修繕計画による支出の平準化と修繕費の抑制 ■早期の修繕実施による長期における経費削減	実施	実施	-			
9		■職員の業務の効率化への意識を統一するための職員会議や面談 ■業務の発注へのコスト意識及び職員の超過勤務削減による経費削減	実施	実施	-			
10		■作家や講師との協働での事業企画による経費削減 ■企業からの現物協賛の受入れ等による経費削減	実施	実施	-	作家や講師に事業の趣旨や意義を伝え共感していただくことで、経費の工夫など経済的にも協力していただきました。また講座で必要な備品を当財団内から借用したり、横浜美術館休館に伴い不要となった講座材料を当館で再利用したりするなど経費削減に努めました。企業に協賛依頼を検討しましたが、実現には至りませんでした。		
			実施	未実施	-			
			実施	実施	-			
			実施	実施	-			
			実施	実施	-			
			実施	実施	-			
			実施	実施	-			

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価	
その他	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1						【成果】 【課題】	

令和3年度 横浜市民ギャラリー 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画	実施状況	評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	説明	自己評価	行政評価
	1			<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、第3期指定管理期間が1年延長され、最終年度の6年目にあたることとなりました。新型コロナウイルス感染症拡大も2年目となり、これまでの経験を活かしながら、安心安全な運営を行いつつ、「文化芸術活動拠点としての機能の強化」「市民文化活動や創造活動に対する支援の強化」「次世代を担う人材の育成の強化」といった3つの基本方針に沿って取り組みました。</p> <p>自主事業では、昨年度実施を見送った「こどもの美術展」をコロナ禍でも安全に行うべく随所に工夫を凝らして実施しました。「新今日の作家展」ではコロナ禍に生きる我々に響く展覧会を、「コレクション展」では当館の豊かなコレクションを多くの方にお楽しみいただけました。大人講座もハマキッズも、定員を大きく上回る申込があり、コロナ禍だからこそ、文化芸術が求められていることが窺えます。</p> <p>貸館利用については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用団体にご理解とご協力を求め、丁寧な対応を心がけました。</p> <p>インターンやボランティアといった次世代育成のための取組は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めつつ活動していただくことができました。</p> <p>設備面では、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、換気などが必要で、昨年度に引き続き外気温湿度に注意を払う管理が求められました。また、これまで問題となってきた収蔵庫の空調設備の不具合、地下1階展示室パネル裏のカビ問題以外にも、ドライエリアでの鉄骨の爆裂や、地下1階の階段下収納の問題など、新たな検討事案が発生しました。引き続き横浜市と協議しつつ、安全な運営に努めてまいります。</p>	<p>・コロナ感染症対策の影響により未経験の状況のなか、消毒等の施設管理及び事業に係る様々な調整について、丁寧に対応しました。今後とも施設運営に係る経験を生かし、状況に合わせて実施可能な方法を検討しながら、利用者へ文化芸術に触れる機会を提供してください。</p> <p>・コロナ感染症の影響下において、オンライン配信を利用した企画やSNS等での情報発信などの充実が求められています。引き続き可能な範囲で検討を進めることを期待します。</p> <p>・収蔵作品の状況確認や、データベースの情報更新、施設内の小破修繕等を適切に進めることを期待します。</p> <p>・令和2年度から実施している近隣施設との連携事業についても継続的に取り組み、市民ギャラリーの事業の幅が広がることを期待します。</p>